

いろいろな設定を変更する-1

設定変更の手順

【浴室リモコン / 別売品】



ここでは浴室リモコンで説明します

【台所リモコン / 別売品】



操作	操作後の画面	お知らせ
「沸き上がり後の保温時間を変更する」の例で説明します		
1 運転入切 を「切」にする 		運転入切 消灯。 * 浴室リモコン・台所リモコンのどちらかで変更できます。
2 設定 を何回か押して「ふる保温」設定画面にする		* 現在の設定を表示します。
3   で設定を変更する		* 0~9時間で設定できます。 (☞P35)
4 設定 を押す <設定完了>		* 約20秒そのままにしても、設定完了します。


変更できる設定内容


P34の手順を参考に、変更してください。


 = 初期設定(工場出荷時)

沸き上がり後の 保温時間を変更する 浴室リモコン・台所リモコン どちらかで設定		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		↑ 保温なし (単位: 時間)									

リモコンの音量を 変更する 浴室リモコン・台所リモコン それぞれで設定		なし	小	中	大
----------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	----	---	---	---

リモコンの音声ガイド (声でお知らせ)を変更する 浴室リモコン・台所リモコン それぞれで設定	 (設定している方が点滅します)	あり	声でお知らせします
		なし	声でお知らせしません 操作音と声の両方とも鳴らさないようにするには、 音量を「なし」に設定してください

省電力タイマーの設定 を変更する 台所リモコンで設定 ヒーター予熱予約 (P28~31) をしている場合、 この表示は出ません。		0.5	1	2	3	4	5	6	連続
		↑ お湯やふろの運転を使わないと自動的に運転スイッチ「切」になる経過時間					↑ 自動的に運転スイッチ「切」にはなりません (単位: 時間)		

予熱の音声ガイド (声でお知らせ)を変更する 台所リモコンで設定	 (設定している方が点滅します)	あり	操作音と声でお知らせします
		なし	操作音のみでお知らせします

リモコンの表示の節電 の設定を変更する 浴室リモコン・台所リモコン それぞれで設定	 (設定している方が点滅します)	する	表示の節電をします(P33)
		しない	表示の節電をせず、スクロール表示します (P33)

給湯温度の上限 (最高温度)を変更する 浴室リモコン・台所リモコン どちらかで設定		32	35	37~48 (1 きざみ)			50	55	60
		(単位:)							

(つづく)

いろいろな設定を変更する-2

(つづき)

沸き上がり温度を 変更する 浴室リモコンで設定		+ 2	わかす保温温度 + 約2 まで沸かします
		+ 1	わかす保温温度 + 約1 まで沸かします
		標準	わかす保温温度まで沸かします (お風呂のお湯の温度によっては わかす保温温度 + 1 になります)

追いだき完了のお知らせ を変更する 浴室リモコンで設定 (設定している方が点滅します)		する	追いだきのお知らせをします
		しない	追いだきのお知らせをしません

機器の水抜きをする 浴室リモコン・台所リモコン どちらかで設定		機器の水抜きをするときに「する」を選択してください (P40)
---------------------------------------	--	------------------------------------

凍結による破損を予防する-1

お願い 凍結による破損を予防する

- * あたたかい地域でも、機器や配管内の水が凍結して破損事故が起こることがありますので、以下をお読みいただき、必ず必要な処置をしてください。
- * 凍結により機器が破損したときの修理は、保証期間内でも有料修理になります。

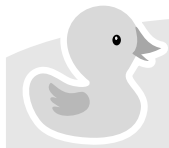
機器内は凍結予防ヒーター(循環ポンプ)で自動的に凍結予防します

電源プラグを抜くと凍結予防しないため、電源プラグは抜かない

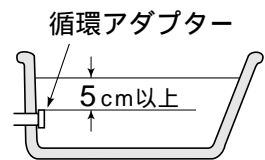


- * 運転スイッチ「入」切」に関係なく凍結予防します。
- * 給水・給湯配管や、給水元栓およびふろ配管などの凍結は予防できません。必ず保温材または電気ヒーターを巻くなどの地域に応じた処置をしてください。(わからないときは、お取付店に確認してください)

ふろ配管を凍結予防するためには、浴槽の水を循環アダプター上部より5 cm以上ある状態にする



- * ポンプが自動的に浴槽の水を循環させて、凍結を予防します。(ポンプの運転音(ウーン)がします)
- * 水がないとポンプが空運転し、機器から大きな音が発生する場合があります。

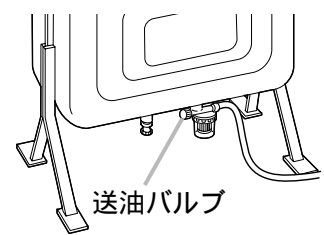


冷え込みが厳しいときは、さらに以下の処置をする

外気温が極端に低くなる日(-15以下)や、それ以上の気温でも風のある日

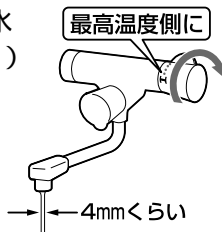
1 リモコンの運転スイッチを「切」にする

2 送油バルブを閉める

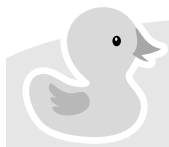
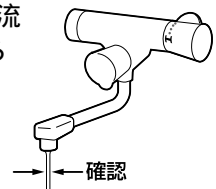


3 おふろの給湯栓を開いて、少量の水(1分間に約400cc・・・太さ約4mm)を流したままにしておく

サーモスタット付混合水栓やシングルレバー式混合水栓の場合は、最高温度の位置に設定する。



4 流量が不安定になることがあるので、約30分後に再度流れる量を確認する



- * 機器だけでなく、給水・給湯配管、給水元栓なども同時に凍結予防できます。
- * 結露現象予防として、運転スイッチ「切」の状態でも給湯栓から水を出さないようお願いしていますが(P8)、凍結予防の処置の場合は問題ありません。
- * サーモスタット付混合水栓やシングルレバー式混合水栓をお使いの場合は、再使用時の温度設定にご注意ください。やけど予防のため。
- * この処置をしても凍結するおそれのある場合には、P39～40の手順で水抜きをおこなってください。